

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 札幌正栄会
施設名	宮の沢すずらん保育園
報告者	野澤 尚美(園長)
住所・連絡先	札幌市西区宮の沢 1 条 2 丁目 6 番 16 号 Tel 011-662-8181 E-mail miyanosawa@suzuran-hoikuen.net

○タイトル（保育計画）

小さな園庭の秘密基地

○主な助成備品

コンパンレッドハウス、テーブル、ベンチ

1. 実施した保育計画策定の目的

宮の沢すずらん保育園は札幌中心部から西側にあり山や川に囲まれ、人口 212,000 人が住む自然豊かな街です。保育園には産休明けから就学前、90 名の子どもたちが毎日元気に過ごしています。園舎 1 階は 0 歳児 1 歳児のお部屋、2 階は 2 歳児から 5 歳児、3 階はホールそして屋上となっています。

地上園庭の広さは 191.4 m²と子どもたちがのびのびと遊ぶには少々小さな園庭、今回第一生命財団様からの助成金を活用して、小さな園庭に相応しい『コンパンレッドハウス』『テーブル、ベンチセット』を置きました。

園庭ですから、遊具はすべての子どもたちが使うことができ、園の特色である「子どもたち同士で育ち合う、異年齢保育」に沿えることを第一に考えました。小さなお家を置くと、きっと子どもたちは、ままごとやかくれんぼ、喧嘩もするけれど子どもたち同士のやり取りが広がる場所になるだろう、こっそり秘密基地にしてくれるだろう、またテーブルやベンチは、お茶を飲みおやつを食べる休憩場所に、そして畑で収穫した野菜をクッキングする場にと思いました。

このような楽しい事を計画する他にも、保育士自身を中心に遊びを進めるのではなく一歩下がって子どもたちを観察してほしい思いがありました。遊びの主役は子どもたちです。私たち職員があらゆることを準備し整えるのではなく、まずは子どもたちがどのように遊びたいのか、何を求めているのか、どんな道具を欲しがするのか、また一生懸命考えてアイデアを出す子どもたちの手助けになること、子どもたちの発想を楽しみに見つめてもらいました。

2. 具体的な実施内容

小さなお家、ベンチ、テーブルがきた！
さっそく中に入っておままごとの始まりです。



0歳児はつかまり立ちに丁度良い高さです。
保育士と一緒にたくさん「いないいないばあ」を楽しみました。



「お外で食べるおやつはおいしいなあー」と子どもの声。時にはお茶を用意し、遊び疲れると自分でお茶を注いで飲んでいました。



—お外でクッキング—

畑から収穫した野菜をその場でゆでたり、切ったり。子ども達の目の前で
行うので嫌いな野菜もパクリ。取れた
ての味を覚えてくれたら…という願い
があります。



焼き芋の準備。葉っぱを集めてた
き火して…ができないので濡れた
新聞紙にさつまいもを包みさらに
アルミホイルを巻いて炭の中へ入
れます。テーブルの高さが丁度良
く準備が進みます。





雪が積もりました。なぜか必ず
といていいほど、子どもたち
は屋根についた雪をおとしてく
れます。お兄さんがやっている
ことを1歳児がまねして雪下ろ
し。



雪深くなったのでベンチとテーブルは室内へ
移動しました。
月1回高齢者との交流会で絵本を読んでもら
ったり、お茶を飲んだり、楽しい時間です。



3. その成果と評価

実施内容の通り、小さなお家やベンチ、テーブルには、たくさん子どもたちが集う場所になりました。お兄さんお姉さんがやっていることを小さなお友だちが真似をする、限られたスペースなので喧嘩もありましたが仲裁をしてくれる子どもたちの姿、ままごとやかくれんぼに限らず、屋根を使って帽子を渡しあう、夏場は水の掛け合いの避難場所、寒い冬の日「雪が降っているときにお家に入るとあったかいね」「しずかだね」という声を聞くことができました。また0歳児がお家を見てどのような表情をするのかとても楽しみにしていたところ、ハイハイをしながら近寄り、つかまり立ちをし「できたよ、みてみて」と言わんばかりの表情を向けてくれました。

季節を通して子どもたちが見たこと、触れたこと、五感を通してさまざまな体験ができました。特に外で行ったクッキングは収穫があるたびテーブルを利用しました。子どもの傍で行うと、ゆでた野菜の色が鮮やかになることを知り、香りを知り、味を知り、切った胡瓜から「水が出てきた」と驚きながら報告してくれました。子ども達はしっかり見て、体験しながら学んでいます。そして保育士も子どもの遊ぶ様子をじっくりと観察し、声を聴き子ども達の遊びがつながる様環境を整えていくことができました。

何よりもお母さんがお迎えに来たとき、子どもたちがお家へ誘う姿が多く笑顔でやり取りをしていたこと、お母さま方が穏やかな表情で子どもを見つめる姿、一緒に遊ぶ姿がとても素敵でした。

4. 今後の課題と展望

今後も子どもたちが学びあえる場として、子どもたちの発想を見逃さないようさらに活用していきたいと思っています。

また26年度夏、園開放を行い参加された親子と在園児で水遊びを楽しみました。家庭とはちがうお子さんの様子を見ながら、子育ての悩みを園庭に置いてあったベンチに座りお話を伺いました。少しの時間でしたがお話を聞いてほしいという思いがあること、保育園の様子をもっと知りたいということが分かりました。子育て支援活動についてはまだ十分ではありません。これからは地域に向けて少しずつ保育園から発信していかなくては、と考えています。その際に小さなお家やテーブル、ベンチを活用する場面をつくっていきたいと思います。

そして、宮の沢すずらん保育園の小さな園庭には『小さなお家』がある、いつも子どもたちが素敵な笑顔とともに集うことができる秘密基地、いつまでも保育園のシンボリックな存在になることでしょう。

以上